

## 川津公民館「理科工作教室」を実施しました

8月17日（水）、川津公民館より小学生の夏休み居場所づくりの講座として理科で何かできないかと頼まれ、理科工作教室を実施することにしました。当初は定員20名の「飛ばして遊ぼう」というテーマで、簡単な工作を実施することにしていたのですが、参加希望者が10名という事であったので、もう少し難易度の高い熱気球を題材に選び実施することにしました。実施に当たっては、島根大学教育学部の塚田先生にもご協力いただきました。

準備においては、小学生が作って飛ばせる熱気球についていろいろ調べ、校長室で何度も予備実験をしました。最終的には、ストローとスポンジ状の両面テープ、おかず入れ用のアルミカップを用い、脱脂綿にエタノールをしみこませて燃焼させるタイプにしましたが、少し危険なところもあったので、大学生の田中菜穂子さん、中村玲菜さんにも協力して



「熱気球を飛ばそう」の説明

右端の2名が協力してくれた大学生



浮上する熱気球を見上げる小学生

気球と手は  
ひもでつな  
がれています

もらって実施しました。また、実施時間が2時間ありましたので、サブメニューとして、手元に帰ってくるブーメラン作りも盛り込みました。

当日は欠席者もあり、7名の参加でしたが、参加した人は全員、熱気球を浮上させることができました。川津公民館のイベントホールは天井が高く、左のように、熱気球が高く浮上しましたので、迫力があって良かったです。

エアコンの風で気球が揺れるのでエアコンを切って実施したのですが、30度を超える気温の中、汗をかきかきの状態でした。熱気球が上昇するためには気球内外の温度差が重要なので、本当は部屋の気温が低い方が良かったのですが、それでも浮上できて良かったです。エタノールに火をつけるときとか、危険を伴うので十分注意しましたが、大学生の2名がいてくれて大変助かりました。

後半は、工作用紙でブーメランを作り、飛ばして遊びました。ブーメランを作るのは簡単ですが、飛ばし方が難しく苦勞している小学生も多かったです。右は、私がブーメランの飛ばし方について教えている様子です。



左は、ブーメランの羽根の形状について、調整しているところです。

参加者は少なかったですが、達成感のある理科工作教室でした。当日ご支援いただいた島根大学教育学部の塚田先生にもこの場を借りて感謝申し上げます。